

2017年（平成29年）2月 721号

エスコラピオス会の記念祭

アダム・クジャク

私たちエスコラピオス会の修道者たちは、昨年の11月より2017年をエスコラピオス修道会の創立(1617年)400周年と聖ヨセフ・カラサンスの列聖(1767年)250周年にあたり記念祭の年として祝っています。聖ヨセフ・カラサンスは1597年にローマで教育を受けられない貧しい子供たちのために無償の学校「スコラ・ピア」を開きました。(スコラ=学校、ピア=敬虔なを意味します) 聖ヨセフ・カラサンスによって始められた「スコラ・ピア」の教育活動は、1617年に教皇パウロ5世の時に「エスコラピオス修道会」の形になりました。聖ヨセフ・カラサンスは没後1748年に列福、1767年教皇クレメンス13世によって列聖され、1948年教皇ピオ12世によってカトリック学校の保護者として宣言されました。それから今世紀には戦後の荒廃した日本を復興させるには、青少年の教育が最も大切だと先輩たちが渡日し、四日市にエスコラピオス学園海星中学・高等学校を開きました。(昨年創立70周年を迎えました) この学校教育は、創立者であり、初等教育の創始者でもある聖ヨセフ・カラサンスの教育は人間を包括的な開発に導く手段で、個人的かつ社会的、そして精神的、宗教的な開発の役割と重要性を含まれていることを唱えています。現代社会における学校の教育的な使命は、人間の完成を目指して、生徒たちが真実を愛し、神の国を地上に建てる協力者として、信仰を生活で表すことが出来たら、そのとき学校がカラサンス性を保つこととなります。また創立者の理念に基づき、学校は国や文化の違いに関係なく、思想的な違いや宗教的信念にかかわらず開かれています。特に貧困と困難にあっている子供たちのために考えています。教師と生徒の関係は、聖書に書いてあるように「はっきり言うておく、わたしの兄弟である最も小さい者にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ25章40節) 生徒は宗教にかかわらず「イエス・キリスト」です。先生はそのような「キリストである生徒」に仕えます。マタイ福音書23章8節には「だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。」とも書いてあります。日本の明るい未来のために、子どもたちに「本当の教師として、キリストを見習い」「本当の愛」を伝え、成長過程において、教師のみならず、家庭でも親と子の関係も良い妻が育ちますようにお互いに努力していきましょう。今年は戸部教会の信者として、エスコラピオス会の兄弟姉妹として8月26日(土)4時から400周

年と、250周年の記念のミサを行い、盛大に御祝をしたいと計画しております。
良い準備が出来ますように、聖ヨセフ・カラサンスの取り次ぎを願って祈りま
しょう。